

## 前回までの検討内容

### 【基準案の検討における論点など】

- 明石市の小・中学校の現況
- 児童生徒数の推計
- 小規模校と大規模校のメリット・デメリット
- 校務分掌
- 免許外教科担任
- 中学校のクラブ活動の状況
- 文部科学省策定の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」

### 【基準案について】

#### ① 【適正な学級数】

##### [小学校]

12～24 学級で問題ない。

##### [中学校]

小規模校のデメリットは、9 学級あれば、かなり解消できる。

過大規模校のデメリットは、24 学級を 18 学級にしても消えるものではないが、24 学級は多いように感じる。

#### ② 【児童生徒数】

##### [全校]

「概ね～」 「～程度」 など、柔軟な表現にしておくのがよい。

##### [1 クラスあたり]

少ない方がよい。

学級の定員を減らすことについても検討してはどうか。

#### ③ 【通学距離】

現在、小学校が概ね 3km、中学校が概ね 4km と望ましい状況になっている。

#### ④ 【適正化の判断基準】

教室数のみならず、良好な教育環境が困難になる場合というような視点があつて良いのではないか。

### 【その他】

- ・全国的に見ると明石の現状は恵まれているからこそ、今から中長期的な見通しを持って対応していくために、数値的な基準と基本的な考え方が必要。
- ・子どもたちにとって、良好な教育環境の確保という観点で検討する。
- ・財政健全化の面から、施設配置の有り方の検討が必要になる可能性がある。
- ・適正化については、地域コミュニティに対して配慮を行うことが必要。